

令和3年度

稲敷市水道事業会計決算の概要



水 道 事 業 会 計

工 業 用 水 道 事 業 会 計

## 令和3年度 水道事業会計決算の概要

### ◎ 総括事項

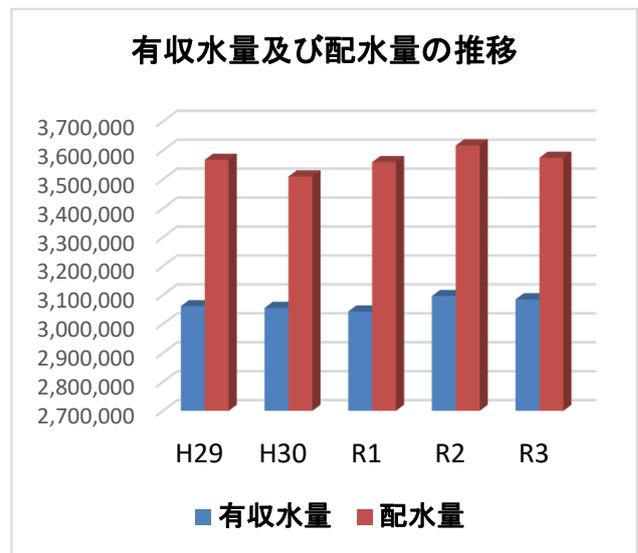
令和3年度末の給水人口は27,837人で、給水件数は11,318件、普及率では73.7%となり、前年度に比べ件数で56件の増、普及率で1.5%の増となりました。

年間配水量3,574,491<sup>m</sup>、有収水量3,085,368<sup>m</sup>で、有収率は86.3%となりました。

事業収益は935,018千円で、うち営業収益の給水収益は822,201千円となり、前年度に比べ4.3%の増加となりました。事業費用は882,469千円で、損益では52,549千円の純利益となっております。

今年度は昨年度に比べ給水収益が大幅に増加しておりますが、これは昨年度に新型コロナウイルス感染症に伴う経済対策として基本料金の減免を行ったことによるものです。一般会計からの繰入れの減少により事業収益としては0.42%の減、事業費用で0.19%の増となりました。

資本的支出は230,592千円で、うち建設改良費は、205,158千円となり、浄水場更新工事等7件を実施しました。



### ◎ 業務の実績

項目	単位	令和3年度	令和2年度	増減	増減率(%)
給水区域内人口	人	37,764	38,631	△ 867	△ 2.24
給水人口	人	27,837	27,883	△ 46	△ 0.16
普及率	%	73.7	72.2	1.5	2.08
計画給水人口	人	43,050	43,050	0	0.00
給水件数	件	11,318	11,262	56	0.50
給水件数(一般家庭用)	件	10,516	10,453	63	0.60
新規加入件数(全体)	件	117	140	△ 23	△ 16.43
新規加入件数(一般家庭用)	件	76	61	15	24.59
導・送・配水管延長	m	594,738	594,314	424	0.07
配水能力	日/m <sup>3</sup>	13,910	13,910	0	0.00
年間配水量	m <sup>3</sup>	3,574,491	3,617,024	△ 42,533	△ 1.18
県水受水量	m <sup>3</sup>	3,234,657	3,337,615	△ 102,958	△ 3.08
自己水源	m <sup>3</sup>	462,532	399,356	63,176	15.82
年間有収水量	m <sup>3</sup>	3,085,368	3,096,806	△ 11,438	△ 0.37
有収率	%	86.3	85.6	0.7	0.82
一日平均配水量	m <sup>3</sup>	9,793	9,910	△ 117	△ 1.18
一日最大配水量	m <sup>3</sup>	10,718	11,199	△ 481	△ 4.30

◎ 比較損益計算書

(単位:円)

科 目	令和3年度	令和2年度	増減	増減率(%)
<b>事業収益</b>	<b>935,017,874</b>	<b>938,926,859</b>	<b>△ 3,908,985</b>	<b>△ 0.42</b>
営業収益	846,729,474	815,824,395	30,905,079	3.79
営業外収益	88,288,400	123,102,464	△ 34,814,064	△ 28.28
特別利益	0	0	0	0.00
<b>事業費用</b>	<b>882,469,343</b>	<b>880,771,343</b>	<b>1,698,000</b>	<b>0.19</b>
営業費用	873,784,178	871,622,856	2,161,322	0.25
営業外費用	8,453,725	8,931,447	△ 477,722	△ 5.35
特別損失	231,440	217,040	14,400	6.63
<b>営業利益</b>	<b>△ 27,054,704</b>	<b>△ 55,798,461</b>	<b>28,743,757</b>	<b>51.51</b>
<b>経常利益</b>	<b>52,779,971</b>	<b>58,372,556</b>	<b>△ 5,592,585</b>	<b>△ 9.58</b>
<b>当年度純利益</b>	<b>52,548,531</b>	<b>58,155,516</b>	<b>△ 5,606,985</b>	<b>△ 9.64</b>
前年度繰越利益剰余金	0	0	0	0.00
その他未処分利益剰余金変動額	0	0	0	0.00
<b>当年度未処分利益剰余金</b>	<b>52,548,531</b>	<b>58,155,516</b>	<b>△ 5,606,985</b>	<b>△ 9.64</b>

◎ 比較貸借対照表

(単位:円)

科 目	令和3年度	令和2年度	増減	増減率(%)
<b>固定資産</b>	<b>5,156,800,226</b>	<b>5,266,466,322</b>	<b>△ 109,666,096</b>	<b>△ 2.08</b>
<b>流動資産</b>	<b>1,665,096,356</b>	<b>1,653,929,398</b>	<b>11,166,958</b>	<b>0.68</b>
<b>資産合計</b>	<b>6,821,896,582</b>	<b>6,920,395,720</b>	<b>△ 98,499,138</b>	<b>△ 1.42</b>
<b>固定負債</b>	<b>419,088,543</b>	<b>445,035,392</b>	<b>△ 25,946,849</b>	<b>△ 5.83</b>
<b>流動負債</b>	<b>182,982,013</b>	<b>227,896,445</b>	<b>△ 44,914,432</b>	<b>△ 19.71</b>
<b>繰延収益</b>	<b>1,280,936,649</b>	<b>1,361,123,037</b>	<b>△ 80,186,388</b>	<b>△ 5.89</b>
<b>資本金</b>	<b>3,493,694,273</b>	<b>3,493,694,273</b>	<b>0</b>	<b>0.00</b>
<b>剰余金</b>	<b>1,445,195,104</b>	<b>1,392,646,573</b>	<b>52,548,531</b>	<b>3.77</b>
<b>負債・資本合計</b>	<b>6,821,896,582</b>	<b>6,920,395,720</b>	<b>△ 98,499,138</b>	<b>△ 1.42</b>

◎ 企業債

令和3年度企業債償還額は25,433,532円で、年度末未償還残高は398,577,956円となります。

未償還残高は、これまで企業債借入を抑制してきたことから毎年減少し、令和2年度末償還残高と比較しますと6.0%の減となります。

企業債増減額

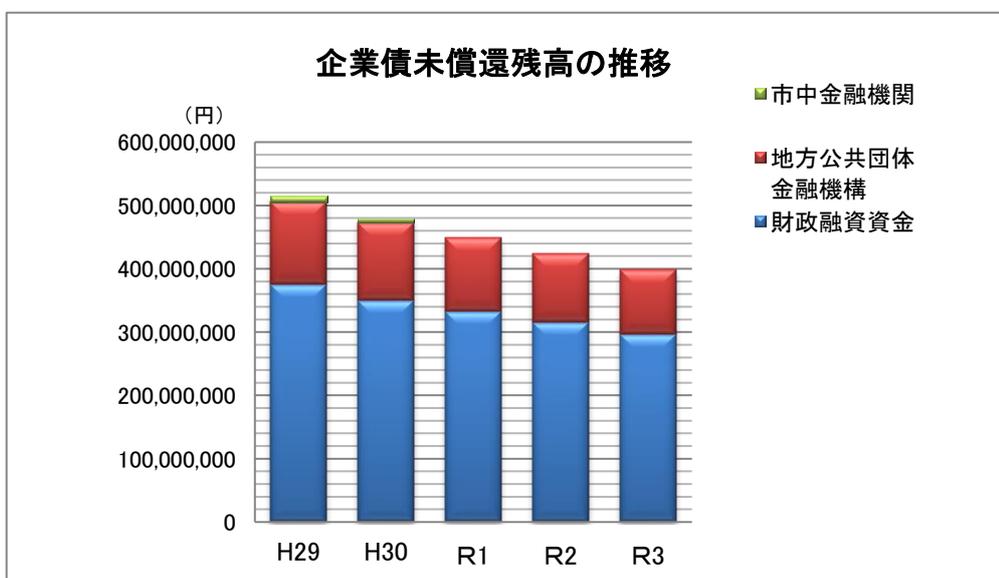
(単位:円)

項目	発行総額	令和2年度末 残高	令和3年度		償還高累計額	令和3年度末 未償還残高
			借入額	償還額		
財政融資資金	459,600,000	314,663,252	0	17,991,842	162,928,590	<b>296,671,410</b>
地方公共団体 金融機構	176,200,000	109,348,236	0	7,441,690	74,293,454	<b>101,906,546</b>
合計	635,800,000	424,011,488	0	25,433,532	237,222,044	398,577,956

未償還残高の推移

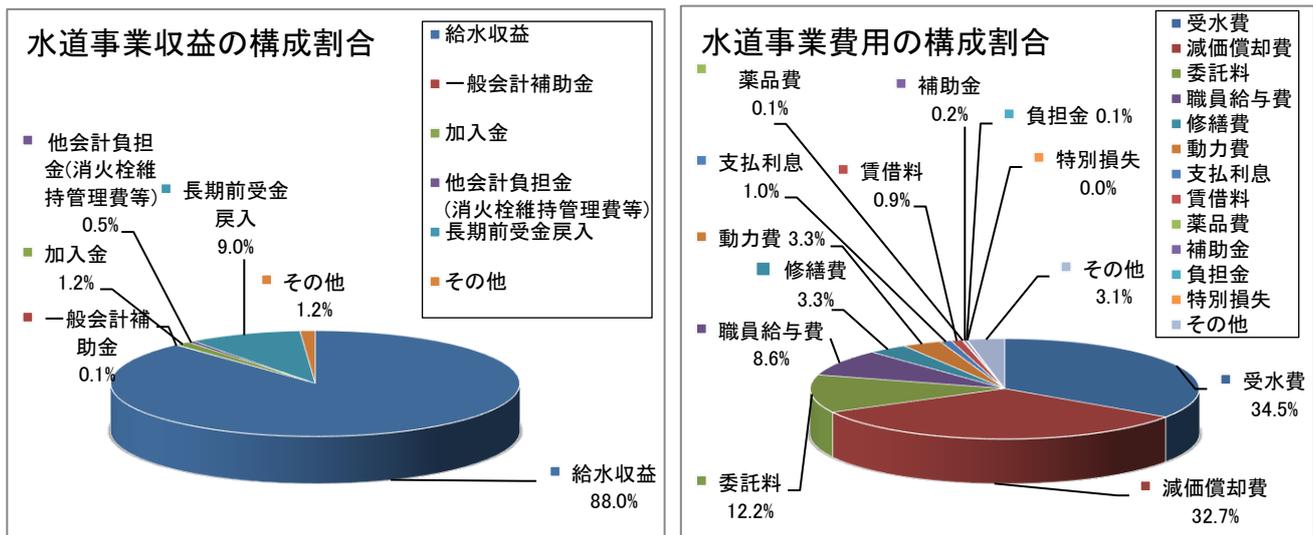
(単位:円,%)

項目	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度 (A)	令和3年度 (B)	対前年度増減額 (C)=(B)-(A)	対前年度増減率 (C)/(A)×100
財政融資資金	374,997,610	349,597,454	332,302,939	314,663,252	296,671,410	△ 17,991,842	△ 5.7
地方公共団体 金融機構	130,779,992	123,781,928	116,639,009	109,348,236	101,906,546	△ 7,441,690	△ 6.8
市中金融機関	10,095,971	5,074,422	0	0	0	0	0.0
合計	515,873,573	478,453,804	448,941,948	424,011,488	398,577,956	△ 25,433,532	△ 6.0



## 【令和3年度収益的収支】

水道事業会計のうち、施設の運転、管理等、水道事業を運営するための経費とその財源



### ◎ 水道事業収益の構成(税抜)

(単位:円)

科 目	令和3年度(A)		令和2年度(B)		増減(A)-(B)	増減率(%)
	決算額	構成比(%)	決算額	構成比(%)		
給 水 収 益	822,200,946	88.0	788,010,442	83.9	34,190,504	4.3
一 般 会 計 補 助 金	840,000	0.1	39,520,492	4.2	△ 38,680,492	△ 97.9
加 入 金	11,130,000	1.2	15,960,000	1.7	△ 4,830,000	△ 30.3
他 会 計 負 担 金 (消火栓維持管理費等)	4,815,000	0.5	4,815,000	0.5	0	0.0
長 期 前 受 金 戻 入	84,460,388	9.0	82,631,188	8.8	1,829,200	2.2
そ の 他	11,571,540	1.2	7,989,737	0.9	3,581,803	44.8
収 益 合 計	935,017,874	100.0	938,926,859	100.0	△ 3,908,985	△ 0.4

### ◎ 水道事業費用の構成(税抜)

(単位:円)

科 目	令和3年度(A)		令和2年度(B)		増減(A)-(B)	増減率(%)
	決算額	構成比(%)	決算額	構成比(%)		
受 水 費	304,598,295	34.5	309,101,570	35.1	△ 4,503,275	△ 1.46
減 価 償 却 費	288,194,451	32.7	278,293,365	31.6	9,901,086	3.56
委 託 料	108,006,128	12.2	106,622,391	12.1	1,383,737	1.30
職 員 給 与 費	75,578,225	8.6	78,086,173	8.9	△ 2,507,948	△ 3.21
修 繕 費	29,547,126	3.3	34,693,623	3.9	△ 5,146,497	△ 14.83
動 力 費	28,850,568	3.3	26,630,002	3.0	2,220,566	8.34
支 払 利 息	8,360,796	1.0	8,863,868	1.0	△ 503,072	△ 5.68
賃 借 料	7,997,348	0.9	7,965,248	0.9	32,100	0.40
薬 品 費	1,000,080	0.1	1,323,920	0.2	△ 323,840	△ 24.46
補 助 金	2,080,000	0.2	2,560,000	0.3	△ 480,000	△ 18.75
負 担 金	700,807	0.1	739,898	0.1	△ 39,091	△ 5.28
特 別 損 失	231,440	0.0	217,040	0.0	14,400	6.63
そ の 他	27,324,079	3.1	25,674,245	2.9	1,649,834	6.43
費 用 合 計	882,469,343	100.0	880,771,343	100.0	1,698,000	0.19

※令和2年度貸倒引当金:不納欠損処分1,591,612円

※令和3年度貸倒引当金:不納欠損処分2,044,261円

## 【給水原価と供給単価】

### ◎ 給水原価

(経常費用－(受託工事費＋材料及び不用品売却原価＋附帯事業費＋長期前受金戻入))÷年間総有収水量  
 効率性の視点から見た指標の判断→「低い」ほうがよい

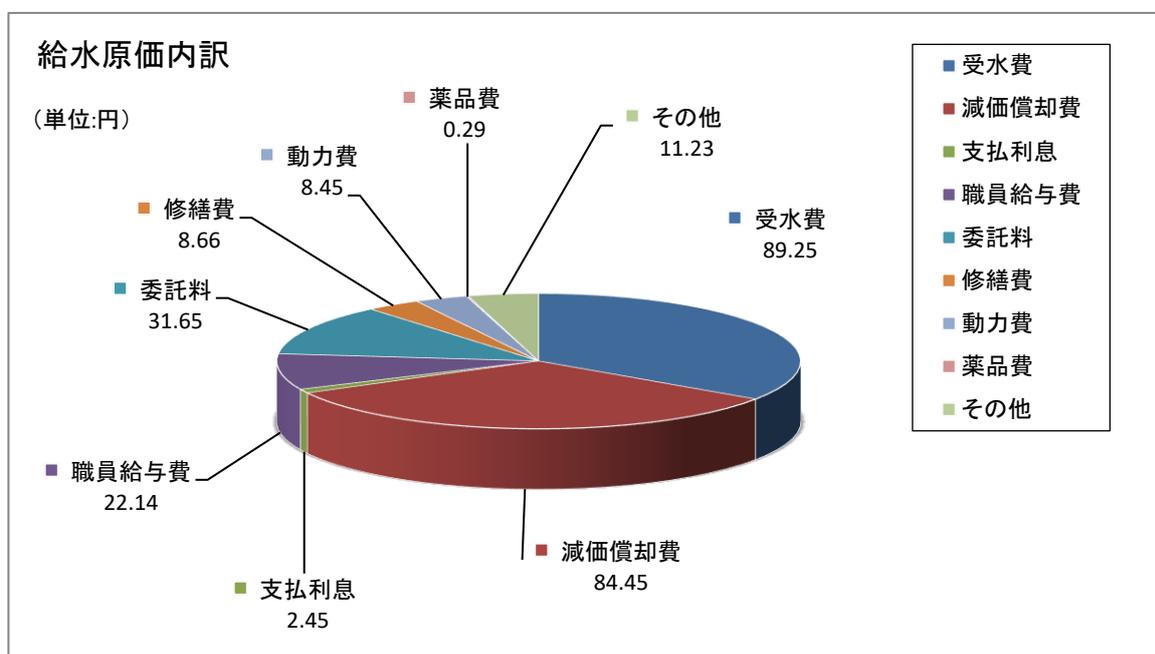
収益につながる水量1m<sup>3</sup>当たりについて、どれだけの費用がかかっているかを表すもので、1m<sup>3</sup>の水を製造するのにいくらかかるかを示す指標です。水道の生産原価を示しています。

#### ・給水原価とその内訳

給水原価の使途はグラフのとおりです。給水原価258.57円のうち受水費と減価償却費が67.17% (173.70円)を占めています。

区 分	3年度	2年度	元年度	30年度
給水原価(A)	258.57	257.66	259.09	254.88

(単位:円/m<sup>3</sup>)



### ◎ 供給単価

給水収益÷年間総有収水量

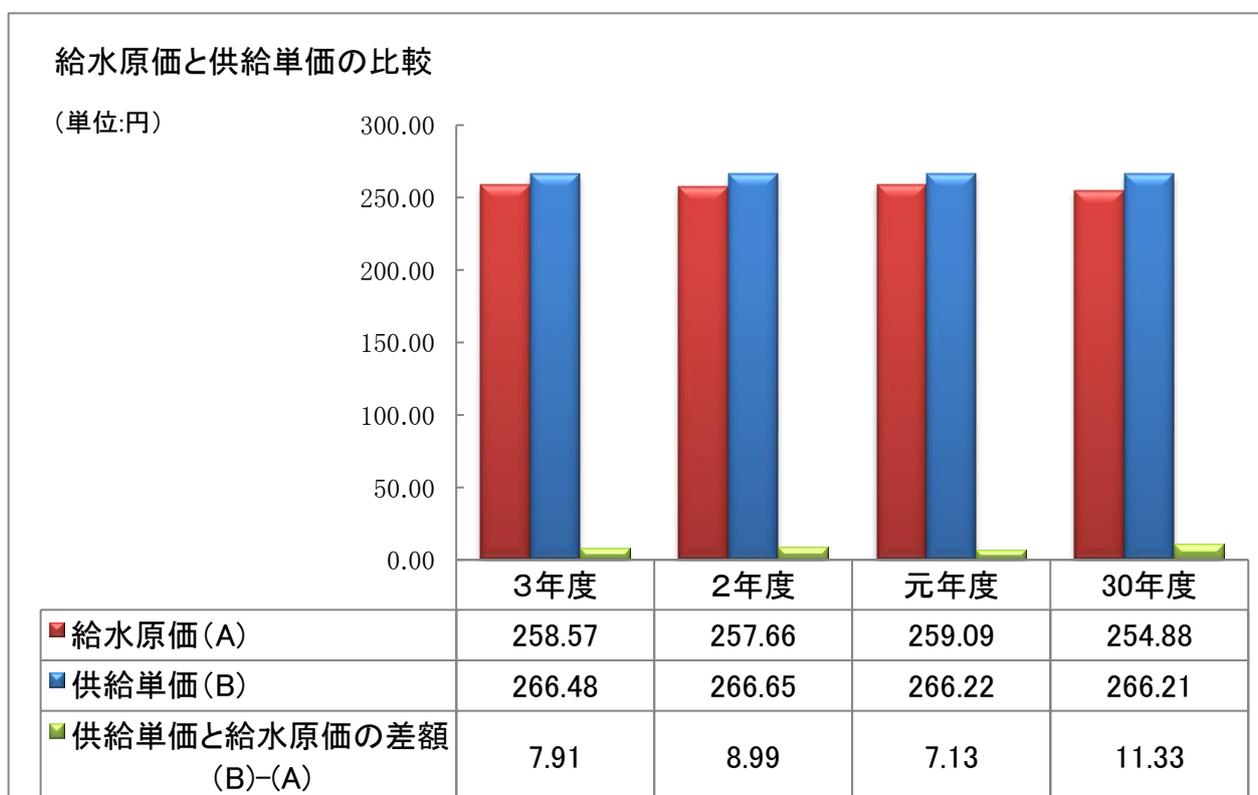
効率性の視点から見た指標の判断→「高い」ほうがよい

有収水量1m<sup>3</sup>当たりについてどれだけ収益を得ているかを表すもので、1m<sup>3</sup>の水を供給したときの平均収入額を見る指標です。

区 分	3年度	2年度	元年度	30年度
供給単価(B)	266.48	266.65	266.22	266.21

◎ 給水原価と供給単価の比較

「給水原価」が「供給単価」を上回っている場合は、給水にかかる費用を補うのに、水道料金以外の収入が必要な状況にあるといえます。1m<sup>3</sup>当たりの水を供給するのにかかる費用と1m<sup>3</sup>当たりの水道料金の平均収入を比較することにより、原価回収されているかをみることができます。供給単価と給水原価の差が、プラスになると利益が出ていることとなります。稲敷市の場合、供給単価が給水原価を上回っている状況にあります。



## 【経営分析】

### ◎ 財務分析表

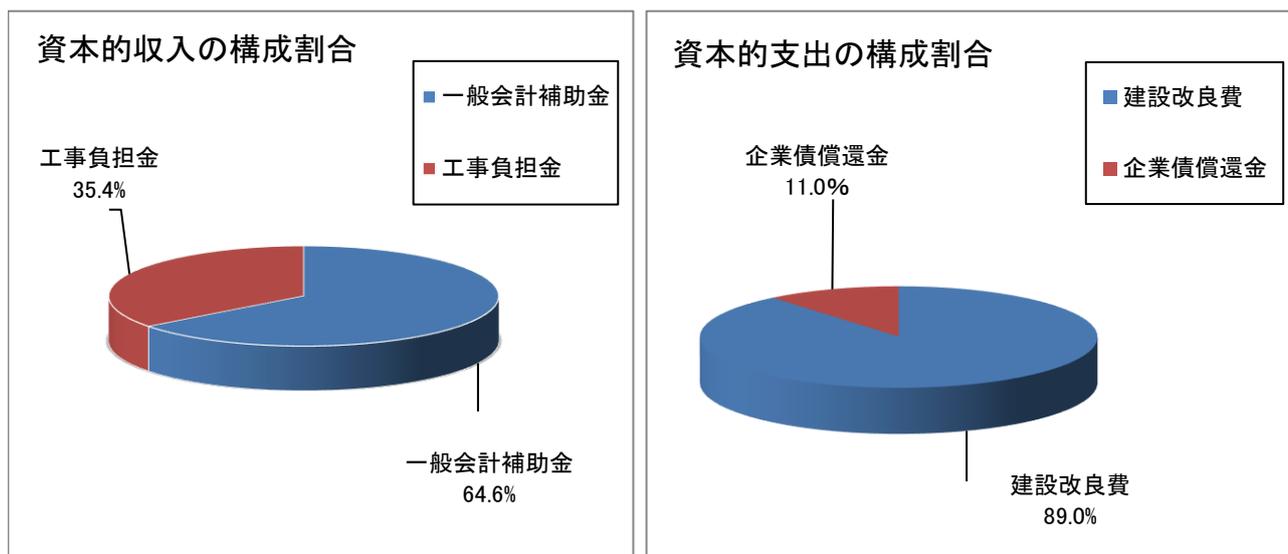
分析項目	令和3年度	令和2年度	県平均 (2年度参照)	解説
1. 自己資本構成比率(%)	91.2	90.3	66.1	総資本に対する自己資本金の占める割合。経営の安定性を判断する指標。
2. 固定資産対長期資本比率(%)	77.7	78.7	90.5	固定資産の調達長期資本の範囲でまかなわれているかを示し、低いほど安定性が高く100%以下が望ましい。
3. 流動比率(%)	910.0	725.7	302.2	企業の支払い能力を示す。
4. 総収支比率(%)	106.0	106.6	110.9	総費用に対する総収益の割合。総収支の安定性を判断する指標。100%以上が安定的とされる。
5. 経常収支比率(%)	106.0	106.6	116.1	経常費用に対する経常収益の割合。経常収支の安定性を判断する指標。100%以上が安定的とされる。
6. 営業収支比率(%)	96.9	93.6	104.1	業務活動によってもたらされた営業収益と、それに要した営業費用とを対比して業務活動の能率を示すものであり、これによって経営活動の成否が判断されるものである。
7. 企業債償還額対減価償却比率(%)	8.8	9.0	60.3	企業債償還額とその主要償還財源である減価償却を比較したものである。
8. 給水収益に対する比率(%)				
(1) 企業債償還元金	3.1	3.2	21.6	料金収入に対して企業債償還額の比率を表したものの。比率は低いほど良好。
(2) 企業債利息	1.0	1.1	4.7	料金収入に対して企業債利息の比率を表したものの。比率は低いほど良好。
(3) 減価償却費	35.1	35.3	35.9	料金収入に対して減価償却の比率を表したものの。比率は低いほど良好。
(4) 職員給与費	9.1	9.8	8.3	料金収入に対して職員給与費の比率を表したものの。比率は低いほど良好。

### ◎ 経営分析表

分析項目	令和3年度	令和2年度	県平均 (2年度参照)	解説
1. 施設利用率(%)	70.4	71.2	67.2	配水能力に対する平均の割合を示し、施設の利用度を見るものである。比率は大きいほど良い。
2. 負荷率(%)	91.4	88.5	88.2	施設が年間を通じて有効に使用されているかを示す。比率は大きいほど良い。
3. 最大稼働率(%)	77.1	80.5	76.2	配水能力に対する最大配水量の割合を示し、この率が極端に低いと過大投資を示し、逆の場合は施設の拡充が必要である。
4. 配水管使用効率(m <sup>3</sup> /m)	6.0	6.1	12.8	配水管使用効率は、導・送・配水管の布設延長に対する年間総配水量の割合であり、給水区域の人口密度の影響を受ける。数値が高いほどよいとされている。
5. 固定資産使用効率(m <sup>3</sup> /万円)	7.0	7.0	6.5	有形固定資産に対する年間総配水量の割合。この比率が高いほど施設が効率的であり、低い場合には遊休資産・未稼働資産についての検討を要する。
6. 供給単価(円/m <sup>3</sup> )	266.5	266.7	200.8	有収水量1m <sup>3</sup> 当たりどれだけの収益を得ているかを表す。
7. 給水原価(円/m <sup>3</sup> )	258.6	257.7	194.1	有収水量1m <sup>3</sup> 当たりどれだけの費用がかかっているかを表す。
8. 職員1人当の給水人口(人)	2,531	2,535	4,276	
9. 職員1人当の有収水量(千m <sup>3</sup> /人)	280	281	442	人的資源が効率的に活用されているか否かを示す指標であり、数値が大きいほど職員1人当たりの生産性が高いことを示している。
10. 職員1人当の営業収益(千円)	76,975	74,166	93,441	

## 【令和3年度資本的収支】

水道事業会計のうち、水道施設を建設・整備するための経費とその財源



### ◎ 資本的収入の構成 (税込)

(単位:円)

科 目	令和3年度(A)		令和2年度(B)		増減(A)-(B)	増減率(%)
	決算額	構成比(%)	決算額	構成比(%)		
借入金(企業債)	0	0.0	0		0	0.0
市からの出資金	0	0.0	0		0	0.0
国庫補助金	0	0.0	0		0	0.0
一般会計補助金	2,760,000	64.6	0		2,760,000	皆増
工事負担金	1,514,000	35.4	0		1,514,000	皆増
<b>資本的収入合計</b>	<b>4,274,000</b>	<b>100.0</b>	<b>0</b>		<b>4,274,000</b>	<b>皆増</b>

### ◎ 資本的支出の構成 (税込)

(単位:円)

科 目	令和3年度(A)		令和2年度(B)		増減(A)-(B)	増減率(%)
	決算額	構成比(%)	決算額	構成比(%)		
建設改良費	205,158,305	89.0	269,326,910	91.5	△ 64,168,605	△ 23.8
企業債償還金	25,433,532	11.0	24,930,460	8.5	503,072	2.0
<b>資本的支出合計</b>	<b>230,591,837</b>	<b>100.0</b>	<b>294,257,370</b>	<b>100.0</b>	<b>△ 63,665,533</b>	<b>△ 21.6</b>

### ◎ 資本的収支の不足額 (税込)

(単位:円)

科 目		令和3年度(A)	令和2年度(B)	増減(A)-(B)
<b>資本的収支不足額</b>		<b>226,317,837</b>	<b>294,257,370</b>	<b>△ 67,939,533</b>
補填財源内訳	過年度分損益勘定留保資金	207,694,637	269,812,152	△ 62,117,515
	当年度分損益勘定留保資金	0	0	0
	減債積立金	0	0	0
	建設改良積立金	0	0	0
	その他 (当年度消費税資本的収支調整額)	18,623,200	24,445,218	△ 5,822,018

◎ 工事概況

(1) 建設改良工事の概況

(単位:円)

	工事名	施工内容	契約金額(税込)
令和2年度繰越 建設改良工事	R2稲水 江戸崎浄水場機械設備更新工事	凝集沈殿池更新工事 1式 フロキュレータ 固液分離装置 二床式仕切弁 φ150・φ75 排泥弁 フロキュレータ操作盤 凝集沈殿池防水塗装 導水管更新	147,070,000
	R2稲水 江戸崎浄水場電気計装設備更新工事	電気計装設備更新工事 1式 処理水サンプルリンクホップ現場盤 コントロールセンタ機能増設 原水流量計 配水濁度計 配水残留塩素計	31,900,000
	R3稲水 上根本地区配水管布設替工事	配水用ポリエチレン管 φ100 L=21.3m 高密度ポリエチレン管 φ100 L=14.0m	5,335,000
令和3年度 建設改良工事	R3稲水 沼田地区配水管布設工事	配水用ポリエチレン管 φ75 L=12.4m 配水用ポリエチレン管 φ50 L=268.1m 地下式単口消火栓 φ75×φ65 N=1基	13,068,000
	R3稲水 犬塚地区配水管布設工事	配水用ポリエチレン管 φ50 L=96.7m	3,135,000
	R3稲水 市道整備に伴う手賀組新田地区配水管布設替工事	配水用ポリエチレン管 φ100 L=197.2m 硬質塩化ビニル管 φ75 L=3.9m 給水切替 N=1件	9,020,000
	R3稲水 駒塚地区配水管布設工事	配水用ポリエチレン管 φ75 L=6.3m 配水用ポリエチレン管 φ50 L=176.1m 水道用ポリエチレン管 φ30 L=131.8m 地下式排気弁付消火栓 φ75 N=1基	10,758,000

## 令和3年度 工業用水道事業会計決算概要

### ◎ 総括事項

令和3年度末の給水事業所数は7件で、1日平均契約水量は310m<sup>3</sup>となり、いずれも前年度と同じになります。年間配水量は39,612m<sup>3</sup>で、有収水量は36,397m<sup>3</sup>となりました。

事業収益は9,208千円で、うち給水収益については7,641千円となり、前年度に比べ6.3%の減少となりました。事業費用は5,115千円で、損益では4,094千円の純利益となっております。

### ◎ 業務の実績

項 目	単位	令和3年度	令和2年度	増減	増減率(%)
給水事業所数	件	7	7	0	0.0
配水能力	日/m <sup>3</sup>	870	870	0	0.0
導・送・配水管延長	m	1,884	1,884	0	0.0
年間配水量	m <sup>3</sup>	39,612	32,441	7,171	22.1
年間有収水量	m <sup>3</sup>	36,397	31,439	4,958	15.8
有収率	%	91.9	96.9	△ 5.0	△ 5.2
年間契約水量	m <sup>3</sup>	113,150	113,150	0	0.0
一日平均契約水量	m <sup>3</sup>	310	310	0	0.0
一日平均配水量	m <sup>3</sup>	109	89	20	22.5
一日最大配水量	m <sup>3</sup>	341	255	86	33.7

### ◎ 比較損益計算書(税込)

(単位:円)

科 目	令和3年度	令和2年度	増減	増減率(%)
<b>事業収益</b>	<b>9,208,204</b>	<b>10,682,706</b>	<b>△ 1,474,502</b>	<b>△ 13.8</b>
営業収益	7,641,330	8,151,996	△ 510,666	△ 6.3
営業外収益	1,566,874	2,530,710	△ 963,836	△ 38.1
<b>事業費用</b>	<b>5,114,576</b>	<b>6,309,210</b>	<b>△ 1,194,634</b>	<b>△ 18.9</b>
営業費用	5,114,576	6,309,210	△ 1,194,634	△ 18.9
営業外費用	0	0	0	0.0
<b>営業利益</b>	<b>2,526,754</b>	<b>1,842,786</b>	<b>683,968</b>	<b>37.1</b>
<b>経常利益</b>	<b>4,093,628</b>	<b>4,373,496</b>	<b>△ 279,868</b>	<b>△ 6.4</b>
<b>当年度純利益</b>	<b>4,093,628</b>	<b>4,373,496</b>	<b>△ 279,868</b>	<b>△ 6.4</b>
前年度繰越利益剰余金	0	0	0	0.0
その他未処分利益剰余金変動額	0	0	0	0.0
<b>当年度未処分利益剰余金</b>	<b>4,093,628</b>	<b>4,373,496</b>	<b>△ 279,868</b>	<b>△ 6.4</b>

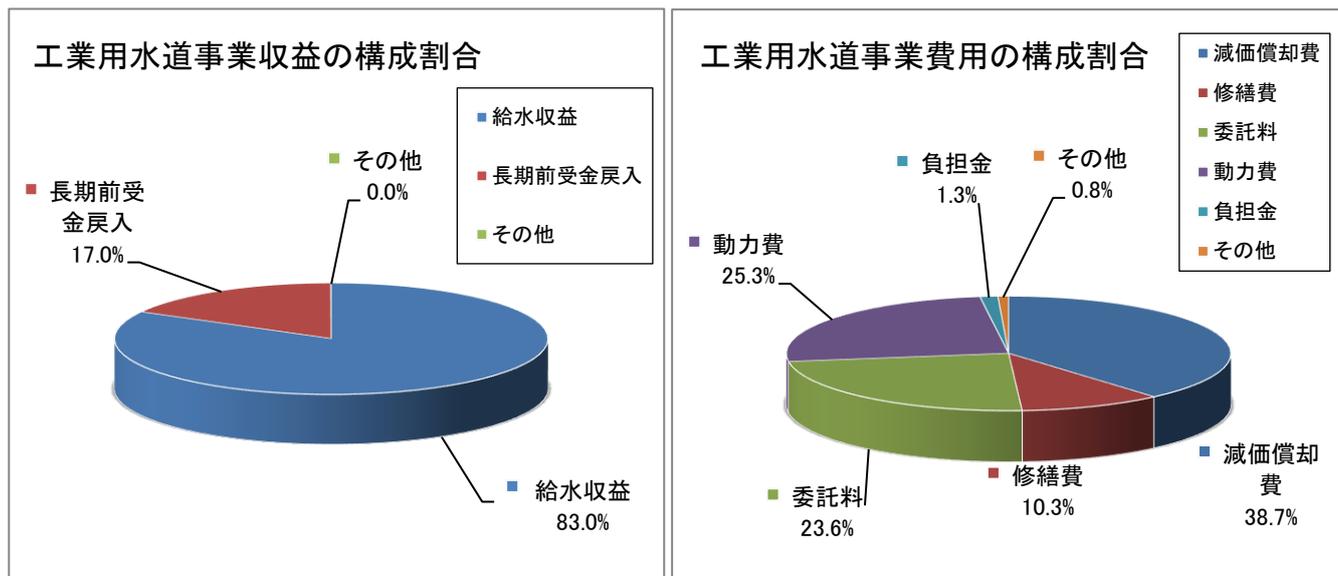
### ◎ 比較貸借対照表

(単位:円)

科 目	令和3年度	令和2年度	増減	増減率(%)
固定資産	27,971,750	29,950,238	△ 1,978,488	△ 6.6
流動資産	156,012,226	152,202,435	3,809,791	2.5
<b>資産合計</b>	<b>183,983,976</b>	<b>182,152,673</b>	<b>1,831,303</b>	<b>1.0</b>
固定負債	6,200,000	6,200,000	0	0.0
流動負債	1,315,678	2,013,515	△ 697,837	△ 34.7
繰延収益	27,007,608	28,572,096	△ 1,564,488	△ 5.5
資本	96,976,488	96,976,488	0	0.0
剰余金	52,484,202	48,390,574	4,093,628	8.5
<b>負債・資本合計</b>	<b>183,983,976</b>	<b>182,152,673</b>	<b>1,831,303</b>	<b>1.0</b>

## 【令和3年度収益的収支】

工業用水道事業会計のうち、施設の運転、管理等、工業用水道事業を運営するための経費とその財源



### ◎ 工業用水道事業収益の構成（税込）

（単位：円）

科 目	令和3年度(A)		令和2年度(B)		増減(A)-(B)	増減率(%)
	決算額	構成比(%)	決算額	構成比(%)		
給 水 収 益	7,641,330	83.0	8,151,996	76.3	△ 510,666	△ 6.3
長期前受金戻入	1,564,488	17.0	1,564,488	14.7	0	0.0
そ の 他	2,386	0.0	966,222	9.0	△ 963,836	△ 99.8
<b>収 益 合 計</b>	<b>9,208,204</b>	<b>100.0</b>	<b>10,682,706</b>	<b>100.0</b>	<b>△ 1,474,502</b>	<b>△ 13.8</b>

### ◎ 工業用水道事業費用の構成（税込）

（単位：円）

科 目	令和3年度(A)		令和2年度(B)		増減(A)-(B)	増減率(%)
	決算額	構成比(%)	決算額	構成比(%)		
減 価 償 却 費	1,978,488	38.7	1,978,488	31.4	0	0.0
修 繕 費	529,100	10.3	123,200	2.0	405,900	329.5
委 託 料	1,210,000	23.7	3,124,000	49.5	△ 1,914,000	△ 61.3
動 力 費	1,291,515	25.3	854,321	13.5	437,194	51.2
負 担 金	65,800	1.3	65,800	1.0	0	0.0
そ の 他	39,673	0.7	163,401	2.6	△ 123,728	△ 75.7
<b>費 用 合 計</b>	<b>5,114,576</b>	<b>100.0</b>	<b>6,309,210</b>	<b>100.0</b>	<b>△ 1,194,634</b>	<b>△ 18.9</b>